

学校施設の耐震化等に関する説明会

- 1 開催日時 平成22年6月8日（火）午後8時～午後8時30分
- 2 開催場所 長岡区公民館
- 3 出席者 米田教育長、吉岡教育次長、藤村学校教育課長、
服部学校教育課主任 計4名
地元出席者 21名
報 道 毎日新聞
- 4 内 容
 - (1) あいさつ（米田教育長）
 - (2) 資料説明 京丹後市立学校施設の耐震化方針（案）
 - (3) 質疑応答
- 5 要 旨
吉岡教育次長、京丹後市立学校施設の耐震化方針（案）説明

質疑応答

(出席者)

この資料は回覧板に回してもいいですか。

(司会)

それは一向に構いません。

(出席者)

再配置計画の方ですが、7月以降と言われたのですが、7月の初めからですか。それとも参議院選挙があるので、それが終わってからとなりますか。再配置の具体的な案を出されたうえでの説明会となりますか。

(教育長)

市長部局の方と協議をしていかなければならないので、今は、はっきりしたことは言えません。再配置計画は、以前お話したものと整合しながら、修正すべきところは修正の形をとって、計画案をもって説明会に行かせていただくことになると思います。日程については、はっきり何時からということとは言えませんが、当初の計画では7月くらいから回るように進めたいということでもあります。

(出席者)

昨年説明があったことの延長線の説明になるのか、それとも白紙からの新たな段階での説明になるのか、そのあたりどうですか。

(教育長)

延長線という意味は前の内容、そのままという意味になります。

(出席者)

昨年、一度説明に来られましたが、それに関連して途中も、しばらく何も聞いていませんがどうですか。

(教育長)

地域によっては耐震の結果で見直さなければならぬところもあります。今、峰山町をどうするかというのはこの耐震結果が出たところで協議していきます。どのようになるかについては、今は、お答えをすることはできません。

(出席者)

耐震と再配置と、蚊帳の中の議論をどうしてして行かないといけないのかということですが、耐震は別の問題ではないかという考え方でいます。再配置は、今後の財政問題とかの意味で効率化の必要もあるでしょうし、教育面で人数の減少による効率化もあると思います。どちらを主眼に置いておられるのかという意味では、別に考えるべきではないか。その辺をどういうふうに考えておられるか。再配置計画というのは、将来を考えたいろいろな面で再配置計画をしないと行けないし、耐震性は別個にしてでも考えて行かなければならないと思います。

(教育長)

3月にお示した時には、広大な土地に小規模の学校がたくさんあると、子どもにとってどういう環境が一番いいのかと、また、20人がなぜ適正規模だというような質問を受けたりしました。子どもたちの学習環境、この広大な土地の中でいかにして行くのが子どもにとって良い教育になるかということの説明を回りました。先ほど言いましたように6月からそういう国の耐震化の話が出てきて、ほとんどの学校が旧耐震の中で今もその制度を利用したら、悪いところの補強もかなり国の費用が活用できる話が出てきました。耐震補強を考えていく時に、子どもにとってどういう教育環境がいいかということは軸において進めていきたいと思っております。

(出席者)

子どもの教育環境を考えた意味での再配置計画の問題だということですね。それと間接的ではあるかも知れないが、耐震性が理由の再配置計画ではないというふうな捉え方でよろしいですか。

(教育長)

方針は、筋を通していきたいと思っております。

(出席者)

説明会ですが、その日程は7月の後半になるまでには、説明できるような現状にあるということですね。

(教育長)

そのつもりで進めているということでもあります。

(閉会 20時30分)